

生物多様性部会

東京2020大会をきっかけ
に生物多様性の主流化を
目指します。2020年をス
ポーツだけでなく、環境の
年とする。

葛西三枚洲をラムサール
条約湿地とし、オリンピッ
クのレガシーに。
そして、将来につながる
取り組みのスタートに。



日本自然保護協会



日本野鳥の会

参加団体(2017年度)

問題意識

- 開催による生物多様性の劣化を防ぐ
- 2020年は環境問題の節目の年であることの認知向上
- オリパラレガシーとして都市の生物多様性の向上が必要

目指すもの

- 生物多様性に配慮したライフスタイル
- 豊かな自然体験の可能な大都市東京
- 東京2020大会をとおしての生物多様性の主流化



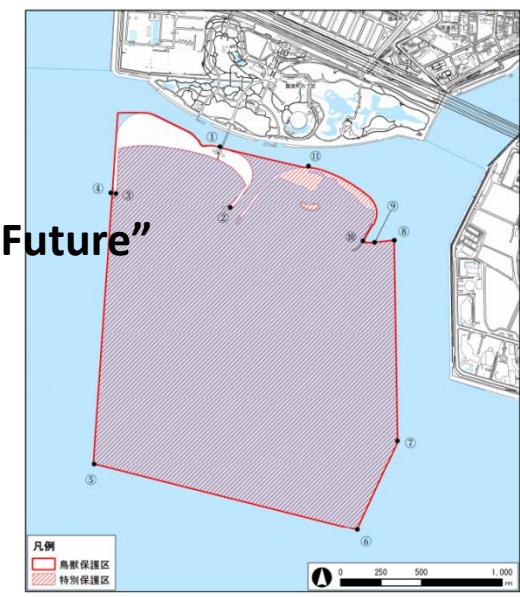


実現までのスケジュール

- 2016年12月 シンポジウム「東京湾の再生と葛西三枚洲」を開催
- 2017年 3月 都議会にて小池知事 ラムサール条約湿地登録
を目指すと発言
- 2018年 2月 世界湿地の日のシンポジウム「都市の湿地を守ろう」
で東京都も発表
- 2018年現在 国指定鳥獣保護区の指定に向けて、環境省による
パブリックコメントの実施中
- 今後 国の審議会を経て、ラムサール事務局に登録手続き
- 2018年10月 ドバイでのCOP13で登録



Ramsar COP13 "Wetlands for a sustainable Urban Future"



生物多様性部会からの提案

葛西三枚洲のラムサール登録を、東京2020大会のレガシーに！

- ラムサール条約登録が、ゴールではない。
ラムサール条約の精神 「賢明な利用」
- そのために、すべてのステークホルダーが関わる
「保全と利用のための計画」が必要
- オリンピックで訪れる方に、胸を張ってPRできる枠組
みの構築を！